

# 鶴舞中央図書館企画展示

## 第二弾

3月21日（土）～4月16日（木）

桜天満宮

十一屋呉服店

風月堂書林

永楽屋東四郎書店

貸本屋大惣

本町通をさんぽする

場所 鶴舞中央図書館2階

期間 2015年2月21日（土）

～2015年5月14日（木）

## 桜天満宮

現在の正式名は天神社。祭神は菅原道真です。境内に桜の大樹があったことから、桜天満宮桜天神とも呼ばれていました。織田信秀が天文元（1532）～天文3（1534）年の間に、那古野城内に創建したと考えられています。その後、天文7（1538）年、城南に万松寺が起工されるとその山門の左に移され、鎮守社となりました。万松寺は名古屋城築城の際、小林村（現在の中区大須）に移されましたが、当社はそのまま残りました。寛文元（1661）年、藩主光友の命で鐘楼を天神社の南に建て、時を告げるため昼夜12時に鐘を鳴らし、一名物となりました。

### \*展示資料\*

#### 『尾張地誌資料』 名古屋市史編纂係/輯

尾張に関する地誌を集めた資料。その中の『金城街日記』に、“時の鐘”について書かれています。

#### 『袂草』 朝岡正章/著

著者が24、5歳（文化末年）の頃から亡くなる前年（天保10年・1839年）まで書き続けた随筆です。「元来此鐘の音はかくべつよきとて朝鮮人もほめたるよし、稀なる名鐘なりしに、惜しき事なり」とあります。

#### ■参考文献

『愛知県神社名鑑』愛知県神社庁／編集 愛知県神社庁 1992年  
『名古屋市史〔第8〕』名古屋市／編 愛知県郷土資料刊行会 1980年  
『愛知〔2〕史蹟郷土史』講談社 1982年  
『愛知県歴史全集 寺院篇』  
愛知県史誌出版協会編集事務局／編集 愛知県史誌出版協会 1986年

## 十一屋呉服店

創業は元和年間（1615～1623年）ごろ。先祖小出庄兵衛は清須越、駿河越といわれる商人ではなく、摂州音羽から名古屋へ出てきて、小間物商を始めました。本町通沿いの玉屋町に移ったのは承応3（1654）年のことです。「十一屋」の屋号は、創業の月日から名付けられたといわれています。明治時代、いとう呉服店（現松坂屋）などと並び、名古屋の4大呉服店のひとつに数えられました。大正4（1915）年、約300年にわたり商売を続けてきた玉屋町を離れ、栄町へと移転し、昭和18（1943）年には、「三星」と合併し、丸栄が誕生しました。

## \*展示資料\*

### 『御預金調達金留』 水口屋文書

江戸期の名古屋の豪商・水口屋に伝わった文書です。当時の御勝手御用達のメンバーと思われる23人の中に、十一屋の名を見ることができます。

### 『名古屋府城志』 樋口好古/著

(『名古屋叢書 第九巻』名古屋市教育委員会/編 愛知県郷土資料刊行会 1983年)

『郡村徇行記』の一部。著者は尾張藩士で、著作を残すために書いたのではなく、自分自身の職分に役立てようと書かれたもののようです。十一屋呉服店の始まりについて書かれています。

#### ■参考文献

『丸栄五十年史』丸栄五十年史編纂委員会/編纂 丸栄 1994年

『近世名古屋商人の研究』林董一/著 名古屋大学出版会 1994年

## 風月堂書林

京都書林風月荘左衛門の別家として、創業年ははっきりわかりませんが、貞享頃(江戸時代前期)には名古屋に店を構えていたようです。当時、本屋は自ら出版をなして初めて「本屋」と称することができました。開業当初は古本専門だったと考えられています。最も古い出版物は、正徳4(1714)年で、本格的に出版が始まるのは明和期に入ってからのことです。松平君山や岡田新川ら尾張藩の学者の著作が多くみられ、松尾芭蕉が立ち寄ったことでも有名になりました。江戸期における名古屋の代表的な書林です。

## \*展示資料\*

### 『金鱗九十九之塵』 桑山好之/著

(『名古屋叢書 第6巻』名古屋市教育委員会/編 愛知県郷土資料刊行会 1982年)

学究ではなく、趣味で書かれたものであるため、他の類書にはない面白さがある地誌です。風月堂の由来が書かれています。

### 当館所蔵の風月堂の出版物

『朱子静坐説』(市7-103)、『新川先生夢遊篇』(別919-4)、『俳諧夢之跡』(別0A9-6)などがあります。『朱子静坐説』は現在確認されている風月堂の出版物の中で最も年代の古い資料です。

#### ■参考文献(風月堂書林、永楽屋東四郎書店)

『尾張の書林と出版(日本書誌学大系82)』青裳堂書店 1999年

『名古屋の出版 江戸時代の本屋さん』

名古屋市博物館/編 名古屋市博物館 1981年

『江戸時代の図書流通』長友千代治/著 仏教大学通信教育部 2002年

『尾張出版文化史』太田正弘/著 六甲出版 1995年

# 永楽屋東四郎書店

風月堂書林から独立し、安永5（1776）年創業と伝えられています。店主は代々“東四郎”を名乗り、号は東壁堂。天明3（1783）年に開校した尾張藩校・明倫堂御用達として漢籍や本居宣長一門を中心とする国学書、そして『北斎漫画』をはじめとする絵本類も企画出版しました。最盛期であった二代目東四郎のときには、江戸の蔦屋と提携して、美濃大垣と江戸にも出店する大書肆へと発展していきます。昭和26（1951）年に廃業しました。

## \*展示資料\*

### 当館所蔵の風月堂の出版物

『日本紀歌解規乃落葉』（鹿-146）、『詞の緒環』（鹿-69）、『参考熱田大神縁起』（鹿-81）、『扶桑畫人傳』（鹿-169）などがあります。『詞の緒環』には日本橋店の名前もあります。

# 貸本屋大惣

屋号は胡月堂。“大惣”とは、大野屋惣八を略して呼ばれたものです。明和4（1767）年に創業し、明治32（1899）年に廃業するまでの130年ほどの間、名古屋城下町において、あたかも図書館のような役割を果たしました。一般庶民に愛されるとともに、東海道往来の愛書家にも親しまれ、その規模は日本でも随一のものでした。廃業後その膨大な蔵書は、現在の国立国会図書館、京都大学、筑波大学、東京大学等へ分散し、わずかですが当館にも所蔵があります。

#### ■参考文献

「貸本屋大惣の研究」（『郷土文化論集』）  
安藤直太郎／著 安藤直太郎先生古稀記念出版会 1973年  
『名古屋の出版 江戸時代の本屋さん』  
『尾張史料のおもしろさ原典を調べる』  
名古屋市博物館／編 名古屋市博物館 2004年

## \*展示資料\*

### 大惣貸本店図 山田秋衛／画

昭和27（1952）年、当館へ贈られた絵です。店内の様子は、大惣最後の主人・江口元三氏の記憶と綿密な考証にもとづき描かれたものです。左下に描かれた少年は坪内逍遙といわれています。

### 当館所蔵の大惣本

『傾城仙家壺』（別 9135-2）、『絵本江戸錦』（わ 332-186）、『家康公平生御物語覚書』（和N2891-1479）、『和歌六帖』（和 91115-22）、『鎌倉諸芸袖日記』（鹿-36）などがあります。蔵書印が押されています。

第三弾 4月18日（土）～5月14日（木）